

# 相談支援つうしん

＜第36号＞平成29年5月15日  
湘南養護学校 支援連携部  
相談支援係—教師編—

～ソーシャルスキルをいかに養うか～

ソーシャルスキル指導には、①活動型 ②教授型 ③機会利用型の3つのタイプがあります。

## ① 活動型

仲間作りや居場所作りをするためのレクリエーション活動を指します。みんなで楽しくゲームをしたりして過ごすことでグループ活動への動機づけを高めたり、活動を通して成功体験を積んだりします。ソーシャルスキルの獲得が直接の目的ではありませんが、その前段階のウォーミングアップとして重要な役割を担います。

## ② 教授型

SSTに代表される取り組みで、ソーシャルスキルのテーマに沿ってプログラムを実施していきます。ロールプレイといった技法を用いて、目標とするスキルの獲得を狙います。しかし、動機づけが低い子どもや情緒や行動の問題が深刻な場合には、このタイプの指導は向かないようです。また、授業という設定で行われるので、日常生活への「般化（はんか）」が大きな課題となります。

## ③ 機会利用型

日常場面の中に機会を見つけてスキルの獲得を目指す方法です。日常場面を活用するので、その場で般化することができる利点があり、教授型における般化の限界を補うことができます。

神奈川県では、「学校運営の重点課題（県立特別支援学校版）」にも示されている通り、ソーシャル・スキル・エデュケーション（SSE）という心理教育プログラムで取り組んでいます。

SSEは、構成的グループエンカウンターを柱として、SSTの要素を加味して行います。SSTは個人で取り組む内容もありますが、SSEは同年齢集団の力を活用し、インストラクション、エクササイズ、シェアリング、フィードバックといった内容で構成されているところに特徴があります。



### ▶ 同年齢集団の活動の重要性

思春期は、身体的にも心理的にも変化が大きく、親へ依存したいという気持ちがある一方で自立したいという気持ちが混在する不安定な時期でもあります。そのような時期の自分を支える存在として、友人関係は心理的な安定に大きな役割を果たします。そこで、SSEの活動における安定した受容的・共感的な情緒的交流を通して、他者への適切な接し方を体験します。友人関係における適切な愛着や絆が形成されることで、単に対人関係スキルの獲得のみならず、いじめの起こりにくい集団形成にとっても予防的な役割を果たすことが期待できます。

### ▶ **インストラクション**

SSEを行うにあたっては、学習する内容を明確に認識して臨むことが重要です。そのために、これから行うことを説明します。必要に応じて視覚的な資料を活用したり、興味を持てるような工夫をしたりして動機づけを高めるようにします。

➤ **エクササイズ**

ねらいを達成するための活動です。エクササイズはできるだけ楽しみながらねらいが達成できるように工夫します。SSEのプログラムの内容や指導案は、県立岩戸養護学校のHPから多数ダウンロード <http://www.iwato-sh.pen-kanagawa.ed.jp/sse.html> できますので、参考にしてください。

➤ **シェアリング**

体験後に自分自身のこと、他者や集団について気づいたことや感じたことなどを共有しあいます。自分の体験を語ったりメンバーの体験を聞いて自分の体験と比較したりすることによって、より体験を意味あるものに深めていくことができます。また、プログラムを共有できたという経験は、グループの信頼関係を高めることにもつながります。

➤ **フィードバック**

リーダーからねらいが達成できたかどうか、気づいたことや良かった点などについて伝えます。また、プログラムで学んだことを日常生活場面に結びつけて説明することによって、日常場面への般化を促進することができます。

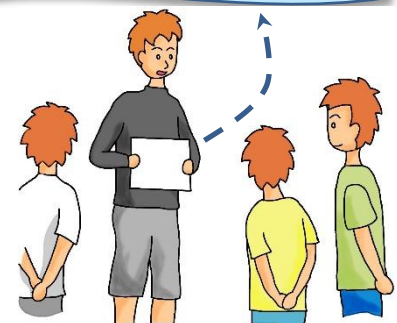
～校内の風景から～

SSEの実践が部活動指導で行われています。サッカー部では、開始時に右のような**インストラクション**をリーダーの先生が全体に向けて視覚的に確認します。ここでは省略していますが、3つのルールの下には、それぞれ具体的な行動の指針と目標像が記載されています。部活動は、生徒にとって動機づけの高い魅力的な活動の1つです。効果的に活用しない手はありません。

**エクササイズ**では、3つのルールを守ることもそうですが、その日によって追加のタスクがあります。ある日は、試合形式の練習で“**ボールを取られたら必ず追いかける**”というタスクが、その場で提示されました。興味深かったのは、タスクが提示された直前の練習でボールを追いかける練習が伏線として組み込まれていたことです。伏線があるので、タスクが急に提示されても体が反応しやすくなるという工夫がなされていました。

**シェアリング**と**フィードバック**では、再度「部活魂」を提示しながら、全体で振り返りを行いました。顧問の先生が、1つ1つのルールに基づいて、生徒一人一人がどのように振舞っていたか、達成状況などを具体的に振り返っている姿が印象的でした。ぜひサッカー部の練習をご覧ください。

湘南養護学校部活魂  
一. 時間を守る  
二. みんな仲良く  
三. 元氣よく  
強く、かっこいいチームを目指そう



ソーシャルスキルの指導は、般化をいかに図るかが大きな課題です。特に、感情のコントロールにまつわることは、感情の抑制を図ることと同時に適切なスキルを発揮するという二重の作業をこなさなければならないので、適度なレベルの設定と明確なルール（守り）がある実践的な場の設定が必要です。部活動は般化を図る機会として、もっとも重要な場の1つとなります。

授業だけで完結させず、部活や行事ごととの連続性を持たせて指導したり、学んだことをホームワークとして取り組み振り返りを行うとよいです。

ちなみに、練習後にグラウンド整備をてきぱきとこなす生徒の横で、肩で息をする先生たち。お疲れ様です。怪我のないように気をつけてください。

